

学校 教育 目標	「つなぐ」＝『自らの成長を自覚し、適切に行動できる 岡津っ子』 ①教材と児童、児童と児童、児童の過去・現在・未来 ②学校、家庭、地域 「知」一人ひとりが学ぶ楽しさと創り出す喜びを感じて自分の学びを大切に、自主的に学び続ける子を育てます。 「徳」他者を思いやり、規律を守って集団行動をしながら互いのよさを認め合う子を育てます。 「体」心と体の健康を大切に、自分や人の生命を大切にすることを育てます。 「公」地域の人とのコミュニケーションを通して地域社会の活動を大切にしようとする子を育てます。 「開」様々な人とのコミュニケーションを通して自然や社会に目を向ける子を育てます。				
	学校 概要	創立 105 周年	学校長 板垣 久美	副校長 眞壁 弘明	2 学期制
児童生徒数:		469 人	主な関係校: 岡津中学校 上矢部小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	岡津中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
		岡津中学校 岡津小学校 上矢部小学校 主体的に自分の想いを表現していく子ども 教職員の理解のもと、一人ひとりの子どもの心の居場所と役割のある学級づくりに取り組んでいます。また、小中交流を通して、子どもたちが安心して、期待感をもって中学校に進学できるようにします。
〈自分づくりに関する力〉 〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉		

中期 取組 目標	○「自らの成長を自覚し、適切に行動できる岡津っ子」の実現を目指して、子どもの思いを大切に保護者や地域と連携しながら、『一人ひとりが大切にされ、主体的に考え行動できる児童の育成』を推進していく。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ICT活用などの不断の授業改善を行うことで学力向上を図っていく。 ・すべての児童が安心して登校し、学校に居場所がある実感をもてるような児童指導を行う。 ・心と体の健康に興味をもち、自ら意識して生活習慣・運動習慣・学習習慣を身に付けることができるようにする。 ・社会性・道徳性を6か年の中で、段階的に身に付けることができるようにする。 ・キャリア教育の視点をもち、子どもたちが自分自身のなりたいたい姿を具体的にイメージすることができるようにする。
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	生きて働く知	①授業の導入時にメタ認知をする時間を設け、「個別最適な学びや協働的な学び」を通して主体的に学習に取り組むことができるようにする。さらに、振り返りの時間を充実させ、次時の学習につなげていく。②デジタル学習基盤を活用し、一人ひとりの状況を把握し、データを生かして日々の授業に活かしていく。
担当	研究部	
徳	豊かな心	①社会のルールを進んで守り、他者よりよく生きていくことができるよう、相手の立場や気持ちを思いやって行動できる優しさを育む。②ペア学年(1.6年、2.5年、3.4年)での仲良し活動を年間を通して行い、異学年交流を通して感謝の気持ちや思いやりの心を育てる。③自己肯定感・自己有用感を高め、自分がかけがえのない存在として大切にすることを養う。
担当	児童指導部	
体	健やかな体	①健康診断や体力・運動能力調査の結果を活用し、児童一人ひとりが自らの健康状態を理解するとともに、規則正しい生活を意識して実践しようとする態度の育成を図る。そのため、家庭との連携し、運動習慣の確立、食育の充実、歯科保健に関する指導推進する。②地域の特色を生かした「地産地消」の取組を推進するため、社会科や総合的な学習の時間等において、地域農業に携わる方々の協力を得ながら、農作物(野菜)の栽培活動を実施し、地域理解と食への関心を高める。③児童が主体となって企画・運営する運動集会や運動週間等を計画的・継続的に実施し、楽しみながら体を動かす機会の充実を図ることで、日常的に進んで運動に親しもうとする態度を育成する。
担当	体育部	
公 開	公共心と社会参 画	①子どもたち自らが積極的に地域と繋がることを大切にして、地域で体験的に学ぶ機会を設け、地域の方を含めた他者との関わりの中で自分の思いを表現できるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用し、過去の学習の様子やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。③岡津の地域を愛し、地域のことをより知ろうとする人材を育成する。
担当	総務部	
いじめへの対応		①いじめの未然防止や早期発見を実現するために、児童が気軽に相談できる環境や職員を増やしていく。②月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、毎日の健康観察や児童アンケート等により些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。③組織的に対応するため、日頃より報・連・相を徹底し、速やかに情報共有し、担当が抱え込まないような指導体制を構築する。
担当	児童指導部	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが中心となって月1回の活動を継続して行う。②ICTを活用して事務作業の効率化を図りや情報の記録を残し共有化する。③会議の内容を精選し、必要であることを効果的に話し合うようにする。また、連絡事項はミラ임を使い確実に伝えられるようにする。
担当	教務部	
特別支援教育		①職員のUDについての理解を深め、学びや環境のUD化を推進する。②障害等を理由に、授業に参加できない状況にないか、常に教育活動を見直し、子どもの思いに寄り添いながら誰一人取り残すことなく、授業に参加できるように取り組む。ICTの効果的な活用について全教職員で検討し、共有する。③SSWや学校カウンセラーと連携して、子どもの思いや保護者の困り感に寄り添い、よりよい学校生活が送れるように支えていく。
担当	児童指導部	
児童生徒指導		①昨年度見直した「岡津っ子スタンダード」を今年度から施行し、基本的な生活習慣をしっかり身に付けることができるようにする。②職員会議において児童理解の内容を扱うことを定例化し、児童の状況を共通理解する。③「Y-Pアセスメント」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を実践する。④不登校児童の思いに寄り添って学習の支援の在り方を探り、外部機関も活用しながら学びが継続できるようにする。
担当	児童指導部	
ICT推進		①GIGAスクール構想を推進し、授業の中で効果的にICTの活用を図っていく。②タブレット端末の管理を徹底し、子どもの思いを取り入れながら使用の約束を決め、児童が正しく使用できるよう指導していく。③AIの使い方を含めて、職員同士で情報交換を深め、働き方改革につなげていく。
担当	情報教育部	
キャリア教育		①学級活動(3)の時間等を活用して「自分づくり教育」を行っていく。学級や学校で取り組める係活動や委員会活動、幼保小や小中交流の連携を通してキャリアについて意識をもたせる。②子どもたちが自分に自信をもち、社会や集団の中で自分の役割を意識し、岡津の地域や横浜に貢献していくことで、夢や希望、目標をもてる子を育成する。
担当	総務部	